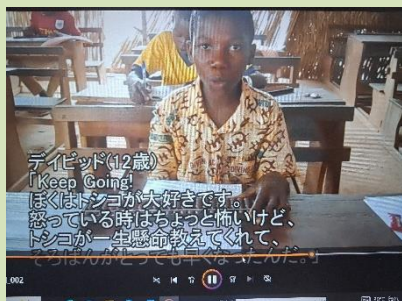


ガーナでそろばんプロジェクト 129 号 (2026 年 1 月 30 日)

★★ Keep Going 未来へのかけはし ★★

依然として、子どもの学びへのモチベーションの質が落ちていく問題を、どのように解決すればよいのか？を算数の授業に於いても試行錯誤の連続です。他者の答えを写して、自身で考えようとしな。また九九の暗記の必要性を話しても返事だけ良くて行動を起こしていない。他者の答えを写す行為は、昔からあり、自身で考えて答えを出したほうが楽しいはずなのに、その楽しい思いや、わかった時の喜びを体験出来ないのは、教育の現場にいる身としてとても残念に思えてしまうのです。分らないことが分かるようになる。出来なかった事が出来るようになる。子どもたちが、わかるようになる、出来るようになる、これら喜んだ時の多くの顔をそろばん教室で見えてきました。2014年に、その当時マイそろばんを手に入れた子どもたちがそろばんに対する想いを聞いた動画を見返しました。子どもが何を話したのかは、もう何回も見て暗記するほどでしたが、改めて見たかったのです。悩みを払拭したかったのです。思えば、この頃も、またコロナになる前2019年までも、学校側から「頭が良くなるからそろばん教室に行く事」というアナウンスは一切なく、私からの告知と、そろばんの良さに気づいた子どもが、友だちや兄弟を連れてくるパターンでした。大学に進学したデイビッドは、そろばん教室に始めた頃、ノートにそろばんの珠を描き、珠の説明をしながら「そろばんは、すごく良いんだ。」と話していた事があったり、バケーション中のそろばん教室に、たまたま村に帰って来ていた他校の生徒で友だちを連れてきたこともありました。「友だちにも、そろばんを知ってもらいたいんだ。」と。九九の暗記を3週間でマスターしたデイビッドのそろばんに対する想いは「ぼくは、トシコが大好きです。」から始まりました。他の子どもは皆「そろばんが好きです。」から始まるのに。十二年前の映像に奮い立たされま

した。まだまだこれからです。



報告 TOSHIKO

子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛

トモエそろばん様